

子宮頸がん予防ワクチンの接種をご希望の方へ

－ 予防接種に欠かせない情報です。必ずお読みください－

☆ 子宮頸がん予防ワクチンは、「サーバリックス」と「ガーダシル」の2種類です。

☆ かかりつけの医師と相談のうえ、効果や副反応などの良く理解したうえで接種して下さい。

1. 子宮頸がんヒトパピローマウイルス (HPV)

子宮頸がんは、子宮頸部（子宮の入り口）にできるがんで、20～30歳代で急増し、日本では年間約8,500人が発症し、約2,500人が死亡しているがんです。

子宮頸がんの発生には、ヒトパピローマウイルス (HPV) の感染が関連しているといわれています。HPVには、100種類以上のタイプがあり、このうちの15種類が子宮頸がんの原因となるハイリスクタイプに分類されています。HPVは性交経験があれば誰でも感染し得る、ごくありふれたウイルスで、感染しても、多くの場合、症状のないうちに排除されると考えられています。HPVが排除されないで感染が続くと、一部に子宮頸がんの前がん病変（がんになる前の異常な細胞）や子宮頸がんが発生すると考えられています。HPVのハイリスクタイプのうち、子宮頸がんの原因となるのは、16・18・31・33・52・58型が日本における主な型です。中でも16・18型が全体の60%を占めています。

2. 子宮頸がん予防ワクチンの効果について

①サーバリックスとは

子宮頸がん患者から多くみつかるHPV16, 18型の2つのタイプの感染を防ぐことができます。サーバリックスを接種しても、HPV16, 18型以外の発がん性HPVの感染は予防できません。また、すでに発がん性HPVに感染している人に対して接種しても、ウイルスを排除したり、発症している子宮頸がんや前がん病変の進行を遅らせたり、治療することはできません。

②ガーダシルとは

子宮頸がん及びその前がん病変、外陰上皮内腫瘍、膣上皮内腫瘍、尖圭コンジローマなどの発症に関係しているHPV6, 11, 16, 18型の感染を予防するワクチンです。ガーダシルを接種しても、この型以外の感染やこれらによる病変発症の予防はできません。また、すでに、この型に感染している人に対して接種しても、ウイルスを排除したり、発症している子宮頸がんや前がん病変などの進行を遅らせたり、治療することはできません。

※ワクチンの予防効果の持続については、現時点で成人女性では、サーバリックスは最長6.4年間（平均5.9年間）、ガーダシルは少なくとも4年は予防効果が持続ことが確認されています（海外臨床試験成績）。抗体と効果の持続については現在も経過観察が続けられております。将来の追加接種が必要となる可能性もありますので、今後得られる情報にご留意ください。

※詳しい内容については、医療機関にお聞きください。

※ワクチンを接種した後も、全てのHPVによる病変が防げるわけではないので、病気の早期発見をするために子宮頸がん検診の受診が必要です。上尾市が実加する子宮頸がん検診は20歳以上を対象として2年に1回の間隔で受診できますので、10代でワクチンを接種しても20歳を過ぎたら定期的に子宮頸がん検診を受けましょう。詳細は上尾市東保健センターに問い合わせください。

3. 子宮頸がん予防ワクチンの十分な予防効果を得るためには3回の接種が必要です

①サーバリックスは、初回接種（1回目）、1か月後（2回目）、6か月後（3回目）に、腕の筋肉内に注射します。

②ガーダシルは、初回接種（1回目）、2か月後（2回目）、6か月後（3回目）に、腕の筋肉内に注射します。

③1回目に接種したワクチンと同じワクチンで2回目、3回目も接種してください。

④3回の接種途中で妊娠した場合、接種は継続できません。その後の接種について医師にご相談ください。

4. 次の方は接種を受けられません

①明らかに発熱している方（通常は37.5℃を超える場合）。

②重い急性疾患にかかっている方。

③本ワクチンの成分（詳しくは医師にお尋ねください）によって過敏症（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性じんましんを伴う重いアレルギー反応を含む）を起こしたことがある方。

④ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方。

5. 次の方は接種前に医師にご相談ください

- ① 血小板減少症や凝固障害を有する方。
- ② 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方。
- ③ 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発しんなどのアレルギーを疑う症状のみられた方。
- ④ 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方。
- ⑤ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことがある方、また先天性免疫不全症と診断された近親者がいる方。
- ⑥ 妊婦あるいは妊娠している可能性のある方、また、現在、授乳中の方。

6. 子宮頸がん予防ワクチンの主な副反応

① 子宮頸がん予防ワクチンと関連性があると考えられた主な副反応は以下のとおりです。

サーバリックス

- 頻度 10%以上：かゆみ、注射部位の痛み・赤み・腫れ、胃腸症状（吐き気、嘔吐、下痢、腹痛など）、筋肉の痛み、関節の痛み、頭痛、疲労
- 頻度 1～10%未満：発疹、じんましん、注射部位のしこり、めまい、発熱、上気道感染
- 頻度 0.1～1%未満：注射部位のピリピリ感、ムズムズ感
- 頻度不明：失神・血管迷走神経発作（息苦しい、息切れ、動悸、気を失うなど）
- まれ：アナフィラキシー様症状（血管浮腫・じんましん・呼吸困難など）

ガーダシル

- 頻度 10%以上：注射部位の痛み・赤み・腫れ
- 頻度 1～10%未満：発熱、注射部位のかゆみ、出血、不快感、頭痛
- 頻度 1%未満：注射部位のしこり、手足の痛み、筋肉が硬くなる、下痢、腹痛、白血球数増加
- 頻度不明：無力症（上まぶたの下垂、物が重なって見えるなど）、寒気、疲れ、だるさ、血腫、気を失う、体がふらつくめまい、関節の痛み、筋肉痛、おう吐、悪心、リンパ節の腫れ・痛み、皮膚局所の痛みと熱を伴った赤い腫れ
- まれ：過敏症反応（アナフィラキシー反応やアナフィラキシー様反応〈呼吸困難、目や唇のまわりの腫れなど〉、気管支痙攣〈発作的な息切れ〉、じんましんなど）、ギラン・バレー症候群（下から上に向かう両足のまひ）、血小板減少性紫斑病（鼻血、歯ぐきの出血、月経出血の増加など）、急性散在性脳脊髄炎（まひ、知覚障害、運動障害など）

② 接種後1週間は症状に注意し、強い痛みがある場合や痛みが長く続いている場合など、気になる症状があるときは、医師にご相談ください。

③ 医薬品医療機器総合機構法に基づく救済制度について：ワクチンを適正に使用したにもかかわらず、発生した副反応などにより、入院の必要な程度の疾病や障害もしくは死亡した場合は、医薬品医療機器総合機構法に基づく被害救済、上尾市が制定する予防接種事故補償の対象となる可能性があります。健康被害の内容、程度に応じて、薬事・食品衛生審議会等での審議を経た後、給付金が支給されます。気になる症状が発生した場合には、医師にご相談ください。

7. 接種後の注意

- ① 接種後の移動の際には、保護者または医療従事者が腕を持つなどして付き添うようにして下さい。
- ② 接種後30分程度はなるべく立ち上がることを避けて、体重を預けられるような場所で待機しましょう。
- ③ 接種後は、接種部位を軽くおさえ、揉まないようにしてください。また、清潔に保ちましょう。
- ④ 接種後翌日まで、過度な運動を控えましょう。当日の入浴は問題ありません。

☆ 20歳を過ぎたら定期的に子宮頸がん検診を受診してください ☆

問い合わせ先：上尾市春日2-1-27 上尾市健康福祉部健康推進課（上尾市東保健センター内）

TEL：048-774-1414 FAX：048-774-8188